

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 23 年度第 3 回薬学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 24 年 1 月 27 日（金）15：00～17：00

場所：近畿大学薬学部 39 号館 1 階会議室

II. 出席者：松山委員長、大嶋委員、大谷委員、梶原アドバイザー（ネット参加）、松野（井端事務局長、森下主幹、平田職員（ネット参加））

III. 検討事項

今回は、主に薬学の教育改善モデルの見直しと、モデルの授業の点検・評価・改善について検討した。

1. 学士力（コアカリ）の実現に求められる教育改善モデルの見直し

前回委員会で教育改善モデルの授業の点検・評価・改善について原案を作成したため、今回はさらに見直しを行い、主に以下の点について修正した。

- ① 本授業モデルがチーム医療における薬学（薬剤師）と他の医療スタッフとの連携に主眼を置いていることから、医学、薬学、看護学に加え、栄養学（管理栄養士）との連携も該当箇所に挿入することにした。
- ② 職種間学習は、共同の臨床実習の前段階として行い、学生のうちからチーム医療の知識を植え付けるものとして、「2.2 授業の仕組み」の冒頭に「4 年次生を対象とし、5 年次生の実務実習を円滑に遂行するために」と追記した。
- ③ 授業の実施方法では、事前学習という時間的・内容的な制約から、職種間授業を行う場合には、1,2 日の集中ワークショップを想定する。その後にチーム医療の一員としての意識を植え付け定着させるために、医学部・薬学部などにセンターを複数設置した教員コンソーシアムを設け、ネットなどを利用した大学教育の一環としての形態を考えた。このような実践には、ネット会議をセットアップするノウハウを本協会から普及させるような方策を取る必要があるのではないかと意見が出た。
モデルでは「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」の冒頭に、「これらは1,2日のワークショップが基本となるが、それに加え、継続かつ定期的な学習機会を提供することがより望ましい。」と追加した。
- ④ 学生の評価方法については、今回、実務実習前の事前学習に焦点をあてた授業モデルを作成しているため、評価方法もその実情に即した「口頭試験＋ポートレートの作成」をケーススタディの中で繰り返すものとして、「2.2 授業の仕組み」の最後に、「到達度は、4 年次終了後に、実務実習に必要な知識・技能・態度の修得状況を判断するために、客観テストの他に口頭試験を医学、薬学、看護学、栄養学等の教員と学外の専門家を含めて行う。併せて、自己の学習の振り返りのために、ポートレートを作成させ、教員と学外の専門家で評価を行う。」と挿入した。
- ⑤ 委員から、創薬を含めた発展学習という内容を盛り込んでどうかとの意見があったが、今回は実務実習事前学習に焦点を絞っているため、論点が発散しないよう今回は創薬に関する内容は割愛することにした。

その他、現在、薬学モデル・コアカリキュラムの改訂が検討されていることから、この改訂に他職種連携を含めるよう要請することとした。

2. モデルにおける授業の点検・評価・改善について

前回委員会で案を作成したため、案と欠席委員の意見を参考に改めて検討し、方向性としては変更はないが、よりわかりやすい説明を加え、以下のとおり修正した。

<前回委員会（案）>

3. 授業の点検・評価・改善

評価方法としては、まずは通常の講義と同様に、教員間評価や学生アンケートなどの方法を用いて授業評価を行う。特に、今回のモデル内容は実務実習事前学習に関する授業改善なので、追跡調査としての実務実習報告会、プリセプターからのフィードバックを通じて、授業の有効性を具体的に評価することが可能である。

<委員意見>

(1) 記載されている内容でよい。「追跡調査としての実務実習報告会、プリセプターからのフィードバックを通じて、授業の有効性を具体的に評価することが可能である。」の記述も、「状況によっては実施困難な場合もある」とは思うが、「可能である」と書いているだけなので問題ないと思う。

(2) 基本的にこの内容で良いと思う。ただ、授業の点検・評価・改善には、学生の習熟度を確認する必要がある。実習報告会やプリセプターからのフィードバックという間接的な方法では点検・評価が十分に行えない可能性も考えられる。「プレテストおよびポストテストの導入により学生個人の習熟度を把握し、授業改善に繋げる」のような文言を加えるのはどうか。

<修正後>

3. 授業の点検・評価・改善

合同ワークショップ実施後、速やかに教員や学生の評価・意見をネット上で集計・解析し、共有する。本評価資料を元に、各学部の教員代表者が協議し、授業に対する点検を行う。

さらに、当該学生の5年次終了後に、追跡調査としての実務実習報告会、指導薬剤師等からのフィードバックを通じて、授業の有効性を具体的に評価し、改善のための資料とする。

3. 今後のスケジュール

今年度の検討内容は今回委員会で終了とし、来年度は今回作成したモデルをもとに、モデル実現のための教員の教育力について検討することを確認した。教育力は薬学教員に求められる専門性（学識）とは何かを考えることにし、具体的には、教員の資質として、発見、統合、応用などの能力を教育力として評価するようなシステムについて検討するものとし、設定した教育力はFD活動にも利用できるようなものにすることを確認した。

4. その他

本委員会の委員について、業務で常時参加できない委員も多いため、今後の選定には、積極的に参加可能な候補者をリストアップするよう要請があり、事務局で検討することとなった。

以上